特集

地域協働で一緒につくる、自分たちが暮らすまち！

「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」から情報発信を進める「青山地区まちづくり協議会」の遠藤政幸会長（右）と同プラザ館長の遠藤荘一さん（左）

これからのまちづくりに必要とされるのは、個人や一つの団体ではなく皆で力を合わせて取り組む「地域協働」。今回は、生活者の一人として事業者として地域にどう関わっていくかを探ります。

地域協働って？

「みんなが同じテーブルで、まちのいろんなことを話せるようになった」。

そう顔をほころばせるのは盛岡市青山町「青山地区まちづくり協議会」の遠藤政幸会長です。「青山地区まちづくり協議会」とは、青山地区の町内会や自治会、子ども会、商店会、PTAなどで組織された団体。同協議会は、盛岡市が進める地域協働のモデル地区でのまちづくりを進める団体として平成23年度に設立しました。また、昨年6月から指定管理を任された「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」を活動拠点に、まちづくりへの新しい一歩を踏み出しています。

さて、その地域協働とは何でしょうか。

「地域がまちづくりを進める場合、かつてのように1つの団体だけだと活動領域に限界が生まれます。そこで共助の力を高め、地域に関係する人それぞれが関わり、地域全体で一緒になってまちづくりに取り組む必要があります。そのための手法が地域協働といえます」。

昨年6月の「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」開館式。以来、「青山夏まつり」や「青山子どもまつり」など同館を中心に多くの催しが開かれています

そう話すのは、盛岡市地域協働推進事務局主幹の菊池伸輔さんです。地域の課題を解決するための方策や地域で必要とされる公益・公共サービスについて、町内会・自治会、NPOなどの市民団体、企業や行政が相談して役割分担を決めて実行していく取り組みを称して地域協働といい、盛岡市ではここ数年地域協働の推進に力を入れています。まずは、平成22年度に市内の各町内会などに出向き、これまでの支援制度や地域が抱える課題などをヒアリング。地域の希望と行政支援にミスマッチがあること、町内会役員の成り手がいないこと、活動そのものへの参加が減っていること、地域行事の日程調整の難しさなど、現状と課題を聞くことができました。それを踏まえて、平成23年4月に地域協働推進計画を策定し、地域協働のモデル地区を募集。冒頭の青山地区、城南地区、本宮地区の3地区が地域づくり組織の設立に動き出したのです。

盛岡市が事業をサポート

市の役割は、組織づくりから計画策定、事業実施において地域担当職員を配置しサポートにあたること。さらに専門知識を持った職員や外部

専門家の派遣、計画策定に必要な経費補助や事業費の補助も大きな支援となります。

「私たち市職員も話し合いに参加することで地区それぞれの実情を知ることができました。より質の高い行政サービスを提供するうえでも勉強になっています」。

地域協働推進事務局の藤澤勇さんはそう話します。

また、各地域づくり組織の活動を支援する一方で、地域協働に関わる人材育成講座や先進地視察なども実施。さらに「地域協働かわらばん：つながるワ！」を発行して、情報共有のサポートも行っています。今後は活動地区を増やすことが目標ですが、まちをつくるのはそこに暮らす人。まちにある資源をどう活かしていくかは地域の力によるところが大きいと菊池さんは話します。

盛岡市の地域協働推進計画は平成27年度まで5年間の計画で進める予定。「事業内容は単年度ごとに見直しをかけ軌道修正をしながら実情に即した活動をしていくことが大事。行政側も柔軟な支援をしていきたい」と菊池さん

「赤レンガ」を中心に広がる青山町の活動

冒頭に紹介した「青山地区まちづくり協議会」の場合、「人の『わ』でみんな元気なまち青山」をスローガンに、あいさつ運動、空き店舗や空き家を活用したサロンの設置、地域の安全点検、青山夏まつりの開催、雪あかりの開催など、取り組む内容を計画に盛り込んで1年間活動を進めてきました。そうした活動の拠点として「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」が大きな役割を果たしています。

明治期に兵馬の屋内訓練場として建築された赤レンガの建物は、まちのなりたちを語るうえでも欠かせない建造物。同協議会は設立とほぼ同時にこの建物の指定管理者に手を挙げ、事業運営と管理を担うことになりました。

「赤レンガは青山地区のシンボル。施設の運営は大変ですが、既存の公民館などとは別に皆が一堂に会する場が欲しかった。ここを活動拠点にすることは協議会設立時からメンバーや地域の皆さんに説明をして理解いただきました。おかげさまで予想より多くの方々に利用いただいております」とほほ笑むのは同館長の遠藤荘一さんです。

「地域にはそれぞれ特有の課題がある。それを見つけて解決するためには自分たちで計画を立てて事業化することが有効」と藤澤さん

指定管理者としての自主事業や協議会の活動のほか、赤レンガを使ったコスプレ撮影会や地元テレビ番組のロケなど、さまざまな形で人が集まり賑わいを生み出しているとのこと。今年は近隣保育園と協力した子育てサロン、介護施設や病院の先生による健康講座や介護講座の企画も持ち上がっているそうです。周辺施設や商店街との協力によってイベントや企画の幅が広がりそうですが、それには事前にお互いが情報共有し、年間スケジュールを一緒に組み立てることが大事だと遠藤会長。冒頭の言葉にあるとおり、「場」があることでいろんな人が集まりコミュニケーションも深まる。それによって目的を共有できるのです。

できる形で地域デビューを

「地域全体が同じテーブルに座って地域のことをもう一度見直す。そして課題や目的を共有する中で、各団体が役割分担をしながら連携して取り組んだほうが効果的で計画的です。地域コミュニティは失ってから戻すのは難しい。今、目の前にある関わりを大切にしてほしいです。地域のつながりは長く続くものだから、無理せずできる範囲で地域デビューしてみて下さい」と地域協働推進事務局の皆さんは口を揃えます。

青山町のように、地域に根ざす施設や企業がそのノウハウやスキルを活かした講座を開催するなど、事業者と地域住民との新しい関わり方も生まれそうです。事業者にとっても地域貢献を今までと違った形で実現するチャンスかもしれません。自分たちが根ざす地域との関わり方を、地域協働の視点からもう一度考えてみませんか。

取材／「SANSA」企画編集委員会

▲「青山地区まちづくり協議会」発行の情報紙や朝市のチラシ。今年は情報発信に力を入れ、ホームページも開設予定

◀毎月1回開かれる「赤レンガ朝市」は、出店者も増えつつあり、春先からは開催日数を増やす予定

■取材協力／盛岡市地域協働推進事務局　盛岡市内丸12-2 TEL.019-603-8002（直通）、盛岡ふれあい覆馬場プラザ　盛岡市青山二丁目6-8 TEL.019-643-3088